


<p>団体名</p>	<p>NPO法人アレッセ高岡</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>外国ルーツ青少年のためのフィルムフェスティバルの開催</p>				
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p>■活動風景</p>				
<p>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>多様性を尊重し、寛容で連帯感のある地域社会を築くことで、外国ルーツの子どもを含めた地域に住むすべての子どもが、それぞれに必要な教育的サポートを受けることができ、批判的思考やリテラシー、地域の一員としての意識を育み、本来もっている可能性を開花させ、自己実現を果たすことができる。多様な子どもたちがその力を十全に発揮することによって、人口減少や少子高齢化、財政難などの地方都市の課題が解決され、持続可能な発展による地方創生が実現する。</p>		<p>映画制作WS撮影風景： 3日間行われた映画制作WS3日目の撮影風景。演技班と撮影班に別れて撮影をした。</p>				
<p>●団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>当団体の社会的役割は、外国ルーツの青少年への教育サポートを行うと同時に、外国ルーツの青少年の存在や課題、可能性について地域社会に訴え、彼らとともに築く地域の未来像を提示することである。具体的には、（1）外国ルーツの青少年への学習および多言語情報支援、（2）外国ルーツだけでなく日本人も含む青少年対象の市民性教育、（3）多文化共生に関する地域住民への啓発活動（広い意味での市民性教育）を行う。</p>						
<p>●団体の活動基盤</p>	<p>高岡市中心部にある事務所を維持し、事務局運営やオンライン支援・イベント等に必要な機器を整備。各種助成金や自治体の補助を継続的に受給し、会費や寄付等による収入も安定的に得、さらに、多文化共生に関わる魅力的なコンテンツを開発し、自主財源とする。当事者である外国ルーツの常勤スタッフが複数名在籍し、安定した収入を得て企画・運営等に主体的に携わることができる体制が整っている。地域や全国の関連団体とのネットワークが構築され、事業のスムーズな実施・新たな展開、組織運営強化などを進める。</p>						
<p>■活動報告</p>		<p>■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>					
<p>先立って実施した映画鑑賞&amp;ディスカッションでは、参加者が同じ映画を観ているにもかかわらず、まったく異なる視点や感想をお互いが持っていることを知り、違いを肯定的に捉える空気を作り出すことができた。 映画制作ワークショップでは、参加した外国ルーツ・日本人青少年が一つの映画作品を作る中で、積極的に意見を言い、行動し、異なる相手を尊重する姿が見られ、イベントのプロセスを経て大きな変化があった。映画制作を通して参加者の間に絆が生まれ、裏方等様々な立場に思いを馳せたり、自身の中の障壁を突破した経験や、将来への展望・意欲についてのコメントが聞かれた。 そして、ワークショップで制作した映画の上映や外国ルーツ・日本人青少年を含む制作者メンバーによるシンポジウムが行われた映画祭では、参加者それぞれがワークショップでの経験を対象化しており、「一つのスクリーンに色々な国の人が出てくることを自然なことだと感じて観てほしい」と多文化共生を深いところで理解したコメントも聞かれた。</p>		<p>外国ルーツ青少年を中心に、日本人青少年も、彼らをとりまく地域住民（大人）も、本事業を通して、多様性を尊重し他者との協働を実践することができた。「違い」に接することで批判的思考も少しずつ養われ、地域の良さとともに課題を指摘する声やディスカッションやアンケートの回答等から聞かれるようになっていく。人権意識も高まっていることがアンケート等から窺えるが、意識だけでなく、映画制作ワークショップでは人権を守るようとする具体的な実践も見られた（例えば、宗教的理由でセリフを変更することを周囲が受け入れ、尚且つそれをきっかけに映画をより良くしようとするなど）。また、撮影を通して地域の歴史や街並み・自然の美しさを知ったり、撮影交渉などによって地域の人々との交流も生まれ、自分たちが暮らす地域の価値に気づいたりして、参加者は地域の一員としての多様な仲間との協働作業を楽しんでいた。以上のように、本事業の参加者については、目標を十分達成したと考える。</p>					
<p>■事業を通じて得られたノウハウ</p>		<p>■望ましい社会状況を達成するための課題</p>		<p>■活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>			
<p>「映画」というキーワードを通して、青少年の興味・関心に沿うことができただけでなく、以前までは当NPOと無関係であった人々と繋がることができ、NPOの活動の意義についても理解してもらうことができた。やはり、今現在無関心な人々への働きかけにおいては、従前のキーワード（「外国ルーツの子どもの教育支援」）だけでなく、広い視野で多様なチャンネルからアプローチすることが、理解者を増やす有効な方法だと思われる。</p>		<p>本事業に参加した人数という点では、社会的インパクトを十分残したとは言い難い規模だと言わざるを得ない。ワークショップは大人数で実施するのが難しいことや映画祭もコロナ禍での実施であったことなどが理由として挙げられるが、今後も継続的に本事業を実施することで、少しずつ多様性を尊重し他者と協働できる人材を育成し、社会的インパクトにつなげていきたい。</p>		<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1541 1169 1684 1319"> <p>この1年間の活動を通じて</p> </td> <td data-bbox="1684 1169 2002 1319"> <p>多様性を愛し地域のために他者と協働できる青少年の育成</p> </td> <td data-bbox="2002 1169 2152 1319"> <p>を達成しました。</p> </td> </tr> </table>	<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>多様性を愛し地域のために他者と協働できる青少年の育成</p>	<p>を達成しました。</p>
<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>多様性を愛し地域のために他者と協働できる青少年の育成</p>	<p>を達成しました。</p>					
<p>■受益者の具体的な変化（自由記入）</p>		<p>映画制作ワークショップのはじめには遠慮してなかなか自分の意見を言えなかったり青少年が、ワークショップ3日間と映画祭を通して、自ら考え積極的に発言・行動し、互いの「違い」を何の気負いもなくさらりと受け止め合いながら、ごく自然に協働していた。そこには、同じ地域の仲間としての絆が生まれていたと考える。</p>					